
令和2年度

桐蔭学園 高等学校 学力検査問題

国 語

令和2年2月11日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 机の上には、鉛筆・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生どうしの貸し借りもできません。また、机の中には、自分のマークシート冊子以外、何も入れてはいけません。
3. 携帯電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、鉛筆を落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子の余白などは、自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 問題は24ページまであります。
7. 問題冊子は持ち帰ってください。

第一問 語句に関する次の設問に答えなさい。

問1 次のA～Eの各文について、傍線部のカタカナと同じ漢字を用いるものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、

その番号をマークしなさい。

A 他国の製品に自国の市場がシンシヨクされる。

1. ネット経由で最新のニュースがハイシンされる。

2. 雨水が地下にゆつくりとシントウする。

3. 徹底した合理化政策をスイシンする。

4. 著作権のシンガイには注意を払わねばならない。

B バクゼンとした不安で夜も眠れなかった。

1. 数分ごとにバクシヨウと拍手の嵐が起あらしこる。

2. ジュバクにかかったかのように身動きがとれない。

3. アラビア半島にはサバクが一面に広がっている。

4. バクフの無謀な方針に対して、庶民の不満が表面化した。

C 世界に自分が一人きりになったようなサツカクに陥る。

1. 昆虫のシヨツカクは周囲の様子を感じる器官だ。

2. たいしたシュウカクもなく取材先から戻ってきた。

3. 隠されていた能力がカクセイした。

4. 日本社会でもカクサは拡大しつつある。

D 地元企業への就職が大いにシヨウレイされた。

1. トーナメントで優勝し、ヒヨウシヨウを受ける。
2. パソコンのスイシヨウ動作環境を確認する。
3. コンテストで入選し、多額のシヨウキンを受け取る。
4. 名誉博士のシヨウゴウを与える。

E 役員達は、会社内の不祥事についてイカンの意を表明した。

1. イシツブツは警察署で保管される。
2. 事故犠牲者のイレイヒに花を捧げる。
3. 交通規則のイハンシャを取り締まる。
4. 子ども向けのイジンデンを出版する。

問2 次の各文において、傍線部の語句の意味を表す表現として最も適切なものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A おいしいものをたくさん食べた結果、味の善し悪しがわかるようになった。

1. 舌を巻いた
2. 舌が肥えた
3. 舌が回った
4. 舌を出した

B 誰でも自分の身近な場所で意外な事件が起きれば、驚くものだ。

1. 足が出てしまえば
2. 揚げ足を取られれば
3. 足を奪われてしまえば
4. 足下から鳥が立てば

C 幼児が言うことをきかなくても、怒るほどのことではない。

1. 目くじらを立てる
2. 目を見張る
3. 目に余る
4. 目から火が出る

D 彼女は、この選抜チームの男ばかりのメンバーの中でただ一人の女性だ。

1. はきだめに鶴
2. 鶴の一声
3. 紅一点
4. 高嶺^{たかね}の花

E 彼は十分な経験を積んでいられしく、顔からは自信がうかがわれた。

1. 片が付いている
2. はくが付いている
3. 先が見えている
4. 場数を踏んでいる

問3 次の各会話文中における言葉の使い方として正しくないものをすべて選び、その番号をマークしなさい。

1. 「お帰りになられるお客様方は、出口までご案内させていただきます」
2. 「いただきものですが、遠慮なく召し上がってください」
3. 「その件は、私の父より聞き及んでおります」
4. 「片平監督、明日はそちらの練習を拝見させていただきます」
5. 「お越しになった方はこちらへどうぞ。私が校内をご案内申し上げます」
6. 「わかりました、三橋先生。班長の田中君に申し上げておきます」
7. 「山田先輩、私たちと一緒に大学を見学に参りませんか」
8. 「そういえば、今日の新聞をご覧になりましたか」

第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

我が国においては個人は長い間西欧的な個人である前に自分が属する人間関係である「世間」の一員であった。したがって何らかの会合において発言する際には個人としての自分の意見を述べる前にまず自分が属する「世間」の利害に反しないことを確認しなければならない。まず「世間」人として発言しなければならないのである。自分自身の意見は【A】として「世間」の蔭に隠れていた。「世間」を代弁する発言はこうして個人にとっては【B】となり、【C】と区別されたのである。こうして「世間」と個人の間で我が国における建前と本音の区別が生まれたのである。

このような建前と本音の違いがくつきりとした輪郭をもって現れたのが明治以降の我が国のあり方、特に近代化、西欧化との関係の中においてであった。明治政府は欧米の近代化路線を採用することを決めた。しかしその際に^①真の意味で我が国を欧米化することが考えられたわけではなく、少なくとも社会構造や政府機関の組織、軍制や教育などの面での近代化が考えられていただけである。制度や[※]インフラストラクチャーの面での近代化にすぎず、西欧精神の面にまで視線が届いていたわけではなかった。つまり表面の近代化に過ぎず、精神の面では旧来の路線の上ですべてが考えられていたのである。

このような状況の中で我が国特有の状況が増幅されたのである。欧米は圧倒的な文明の力をもって我が国に圧力をかけてきた。それは単に軍事力や合理的な法体制だけでなく、フランス革命を経て身につけた人権理念を表面に掲げたものであったから、^②抵抗のしようがなかった。明治時代に欧米を訪れた政府の要人たちは欧米の社会の基礎をなしている理念の圧倒的な力に感嘆を惜しまなかった。武力だけの圧力なら抵抗のしようもあったであろうが、否定し去ることのできない崇高な理念が掲げられたとき、その前にひれ伏すしかなかったのである。しかも我が国の現実には欧米とはあまりにかけ離れていた。明治時代に我が国は国を挙げて欧化政策に取りかかるしかなかったのである。しかし欧化といってもそれは法制や行政構造、産業、教育制度などに限定され、人と人の関係のあり方にまではとうてい及ぶものではなかった。欧米諸国は近代化以前に数千年の時

間をかけてその準備をしてきたのであり、我が国が欧米化路線を採用したとしてもわずかの時間にそのすべてをたどることができるはずもなかった。また当時の政府の要人たちも精神の面まで欧化しようと考えていたわけではなく、いわば【D】の道を模索していたのである。

文明にせよ、文化にせよ、最終的にはその根幹に人と人の関係の特異なあり方がある。新しい人と人の関係のあり方が生み出されたとき、新たな文明が誕生する条件が生まれたことになる。明治時代に我が国は欧米の諸制度を取り入れながら、結果としては人と人の人間関係については従来の形を残すことになった。そのような決断を明治政府がしたわけではない。圧倒的な欧米の近代的諸制度を前にして身も魂も奪われてしまいかねない状況の中でかろうじて踏みとどまったというべきであろう。こうして我が国特有の状況が生まれた。国家の体制と法制、経済の諸制度、教育体制などは欧米に範を得て一応近代化されながら、一人一人の人間の生き方の点では、^③従来の慣行が維持されたのである。

この状況はしかしやや複雑であった。なぜなら当時欧米を訪れた人々は欧米の近代的個人のあり方に感嘆し、我が国の個人のあり方に不満を漏らしていたからである。欧米の個人のあり方を理想とする人々も少なからずいたのである。しかし、我が国は結果としては従来の個人のあり方を変えることはなかった。こうして近代的な枠組みの中に従来の個人のあり方だけが生き残ることになった。

従来の人と人のあり方とは一言でいえば「世間」のことであり、「世間」が生き残ったということなのである。「世間」とは古来日本人の世界観の一部をなしており、[※]2 前著で明らかにしたように、本来山や川、海や風などの自然界の出来事をも包含するものであり（器世間）、後世になって人と人の関係のあり方を意味する（有情世間）ようになったものである。近代的な諸制度の中に伝統的な人間関係である「世間」が生き残ったことはその後の我が国の諸問題に深くそして決定的な影響を残すことになった。政治や経済の諸問題だけでなく、法や教育の面においても欧米の影響は大きかったから、これらの諸問題については常に欧米に範が求められていた。欧米の個人のあり方は当時の知識人を捉えてはなさなかったし、明治以降の我が国の

体制の中では欧米に範をとった近代化路線が主流をなしていたから、政治家も学者も文化人も公的な発言をする際には常に欧米流の内容を主として発言していたのである。

しかしひとたびその内容が発言者個人の生き方に関わる場合には複雑な事態となった。なぜならそこには「世間」が生きていたからであり、公的な発言をするものは常に自分の生き方と離れて別な次元のこととして話をしたのであり、自分の「世間」に関わらないよう用心していたのである。

こうして建前と本音の世界の区別が生まれたのである。人々は公的な発言をする際には常に欧米流の内容を主として発言し、公的な場を離れたときには自分の「世間」に即して本音でしゃべったのである。明治以降我が国はこのようにして理念の世界と本音の場の世界との二つの極をもつことになり、^⑤特に知識人の場合はその相克は深刻なものがあつた。

大切なことは当時も今も「世間」は隠されていたことである。人々は自分が「世間」に私的生活の足場をもっていることを隠してあたかも建前の世界だけで生きているかに振る舞ったのである。「世間」はこうして隠されたのである。そのことは言葉としての「世間」が公的な文書から消え去り、日常会話の中でのみ生き残ったことに示されている。明治十年頃にソサイエティーの訳語として社会という言葉が定められたとき、「世間」という語は公的な舞台から消えていった。人々はあたかも「世間」が存在しないかのように振る舞うことになったのである。しかし私的生活領域を基礎とした「世間」は私たちの生活の中できわめて大きな部分を占めているから、「世間」の中で生きている人間としてうなずけないことに対してはうわべはいかに従うかに見えても強固な反対の意志が隠されているのである。

^⑥我が国の近代化がもたらした最大の問題がこうして生まれた。以後今日まで人々は政治、法制、教育そのほかのあらゆる分野において二重生活をやむなくされたのである。言葉は言葉それ自体として受け止められず、その背後にある真の意図が常に探し求められるようになった。発言の真意とか趣旨といわれるものがそれである。ある人が公的な場で発言した場合、その発言がその人の私的生活領域に根ざしたものであれば信用されるが、そうでない場合はただの言葉として受け止められるに過

ぎず、疑いの目で見られることになる。本音とはその人の公的でない、私的生活領域に根ざした発言をいい、「世間」に根ざした言葉として信用される。

明治以来私たちは欧米の個人があたかも我が国に存在しているかの幻想の中で生きてきた。したがって「世間」の存在を言葉や行動の中で否定してきたのである。しかし私が見るところ我が国の人々、特に知識人といわれる人々は全く意識していないが、それぞれの「世間」の中で生きており、自己の存在自体が、その「世間」に依存しているのである。我が国の知識人は一人になったことがなく、自分が自分の「世間」に依存していることに気づいてもいないのである。だから時に外国に出張し、一年くらい滞在することになったときにそのことが露呈されることがしばしば起こる。

たとえば出張している人のところに大学から何らかの要請が届けられることがある。そのようなときにその人は日本にいたときと同様な振る舞いが出来ないことが多いのである。

X

そのようなときに彼は平衡感覚を失い、極端な行動に出がちなのである。日本の知識人は一人になったときに危ういのである。

①このような社会において大人になるといふことはどういうことだろうか。大人とはなによりもまず「世間」を知っている人をいう。「世間」とは大人が互いに結んでいる人間関係の絆きずなを意味し、それは人によって少しずつ異なっているが、多くの場合、それは年賀状を交換したり、お中元やお歳暮を交換したりする関係である。「世間」を構成する人たちの間には何の※ていかん定款もないが、互いに一つの「世間」に属していることはよく知っているのである。「世間」に属している人はその仲間の葬儀には原則として列席しなければならない。「世間」を構成している人々の間には年賀状やお中元お歳暮の交換という義務がある

が、この義務の背後には互いに何らかの世話をするということがある。同じ会社に属している場合には引き立ててもらったり、有利な条件で関係を持つことができることもある。同窓会はそのような意味で「世間」の代表的なものである。先輩後輩の間で互いに助け合う関係が生まれるのである。

このような「世間」は同時に他の「世間」に属している人たちと競合する関係を持っている。政党の派閥を見ればその関係はよく解るであろう。単に競合するだけでなく、時には差別を助長する関係ともなる。「世間」は排他的で、差別的な関係なのである。この点については前著で述べたのでここでは繰り返さない。

このような「世間」からなる社会で大人になるということは容易なことではない。子供はまず大人が建前の世界で生きていくことを知ってしまう。明治以降設立された学校は欧米の制度をまねて作られたものであり、その意味では建前の世界のものであったのである。しかしその制度には単に建前であったとすましてしまいうわけにはいかない重要な面があった。

たとえば学校においては身分差別は否定されていた。^{※4}被差別部落の子弟でも学校においては他の子供と机を並べて学んだのである。これは建前の世界がもたらした積極的な面である。学校ではこうして身分差別は否定されていたが、現実の社会の中に存在している差別については口をつぐんでいたのである。そのような意味でも学校は建前の世界であった。

明治以降我が国の教育は基本的に欧米の制度を範として行われたが、その際に我が国固有の文化は教育の対象にはならなかった。つまり西欧的な観点から日本の社会が描かれ、西欧的な個人があたかも我が国にも生まれているかの前提の上で教育が行われたのである。「世間」は今に至るまで我が国の教育の対象になっていないのである。子供たちはある年齢になると大人の世界が建前の世界であることを知り、建前と本音の使い分けを学んでゆく。こうして子供たちは大人になってゆくのである。

(阿部謹也『教養とは何か』)

※1 インフラストラクチャー 経済活動の基盤となるような道路、上下水道などの施設、制度のこと。

※2 前著 この筆者の著作『世間とは何か』をさす。

※3 定款 根本的な規則。

※4 被差別部落 昔から、身分、職業、居住を低く固定された人々のいた場所。

問1 本文中の空欄【A】～【C】にあてはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 【A】 〓 建前 【B】 〓 本音 【C】 〓 建前
2. 【A】 〓 本音 【B】 〓 本音 【C】 〓 建前
3. 【A】 〓 本音 【B】 〓 建前 【C】 〓 本音
4. 【A】 〓 建前 【B】 〓 建前 【C】 〓 本音

問2 傍線部①「真の意味で我が国を欧米化すること」とありますが、「真の意味」とはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 欧米を訪れた当時の日本の要人たちが新しい個人の生き方を捉えるとらえる時に、自国の伝統を見つめ直すこと。
2. 日本政府が欧米の諸制度を取り入れる時に、従来の個人のあり方を維持した状態を目指すこと。
3. 当時の日本の知識人たちが欧米を訪れた時に、社会の基礎となる人権理念にも目を向けること。
4. 日本が国を挙げて欧化政策に取り組む時に、それが個人のあり方を規定する精神的な面にまで及ぶこと。

問3 傍線部②「抵抗のしようがなかった」とありますが、筆者はどのようなことに「抵抗のしようがなかった」と考えていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 近代化に目覚めた政府の要人たちが思い知らされた、伝統的な日本文化の力量の限界。
2. 欧米の文化と文明の両面において、我が国との差を痛感させられたことによる劣等感。
3. 日本人の心を完全に捉えることになった、欧米の数々の近代的諸制度がもつ圧倒的な魅力。
4. 近代化以前に長い年月をかけ、社会変革などを経て形成されてきた、欧米の理念の気高さ。

問4 本文中の空欄【D】に入れるのに最も適切な四字熟語を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 竜頭蛇尾
2. 文明開化
3. 和魂洋才
4. 付和雷同

問5 傍線部③「従来の慣行」にあてはまることとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 「世間」の規範に沿って行動したり語ったりすること。
2. 我が国の「世間」のあり方に不満をもちますこと。
3. 法や教育の面で欧米に範を求めること。
4. 人権理念を表面に掲げて行動すること。

問6 傍線部④「我が国は結果としては従来の個人のあり方を変えることはなかった」とありますが、筆者はこのことについてどのように考えていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 欧米諸国の近代的個人のあり方に感激した明治時代の政府の要人たちが、我が国の個人のあり方に不満をもっていたことは確かだった。しかし、身も心もその虜となってしまうような欧米の近代的諸制度を目の当たりにして、当時の政府はせめて日本人の精神だけでも残したかったと筆者は考えている。

2. 明治時代の政府の要人たちは、欧米を訪れて、そこで目にした圧倒的な文明の力にひれ伏すしかなかった。あまりにも我が国とはかけ離れた状況を見てとった彼らは、社会構造や政府機関の組織や教育制度など、表面的な近代化を何よりも優先して進めようとしたと筆者は考えている。

3. 明治時代に欧米を訪れた政府の要人たちは、我が国の状況と見比べて、欧米の社会的土台を形成する理念をほめたたえた。しかしながら、欧米諸国がどれほどの期間をかけてその理念をつくり上げてきたのかを知り、我が国が短期間にそのような理念を血肉化することを断念したと筆者は考えている。

4. 欧米諸国の諸制度やインフラストラクチャー、およびその基盤となる西欧精神にふれた明治政府の要人たちは、国を挙げての欧化政策の必要に迫られた。そのような中で我が国は、伝統的精神を守るために、近代的な個人と伝統的な個人のあり方の対立を回避しようとしたと筆者は考えている。

問7 傍線部⑤「特に知識人の場合はその相克は深刻なものがあつた」とありますが、どうしてですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 明治以降の人々は、公的な場では欧米流の発言をしつつ、個人的な場では自分の「世間」から非難されるのを恐れてそのような発言をひかえた。しかし、当時の知識人は、我が国の体制が欧米に範をとり「世間」を否定してきたために、個人的な場においても欧米流の発言をしなければならなくなってしまったから。

2. 明治以降の人々は、公的な場では欧米流の発言をし、公的な場を離れると自分の「世間」における人間関係をこわさないような発言を心がけた。しかし、当時の知識人は自分が「世間」に従属していることを自覚しないまま欧米の理念に強い影響を受け、それを発言や行動の模範としたため、私的な生活の場から遊離することになってしまったから。

3. 明治以降の人々は、公的な発言の際には欧米流の内容を主とするのに対して、公的な場を離れると自分の「世間」の中では他人を気にせず本音を語った。だが、当時の知識人は、我が国の近代化を推し進めるためには伝統的な人間関係である「世間」が障害になると確信するようになってしまったから。

4. 明治以降の人々は、公的な発言の場では欧米流の内容を主とする一方で、個人的な生活の場では自分の「世間」に即して本音を語った。だが、当時の知識人は、「世間」に縛られながらも欧米の理念に心から魅了されたために、欧米流の社会と「世間」のどちらを優先すべきかで困惑してしまったから。

問 8 傍線部⑥「我が国の近代化がもたらした最大の問題」とありますが、これはどのようなことをさしていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 「世間」が存在していることを忘れなければならないこと。
2. 建前の世界と本音の世界の両方の世界で生きていかなければならないこと。
3. 公的な舞台において「世間」という語を用いることができなくなったこと。
4. 欧米の個人が我が国の中に存在しているという前提を持たねばならないこと。

問 9 本文中の空欄部 X に次の各文を意味が通るように並び替えて入れた場合、正しい順番はどれになりますか。後の選択肢の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。なお、選択肢 e の「桎梏しごく」とは、人の行動を制限して自由を束縛するもの、という意味です。

- a 日本にいたときには自分では意識せずに「世間」の規範に沿って行動し、語っていた人が、「世間」が見えなくなった外国ではその規範もなくなり、自由に行動し、書くことが出来るのである。
- b そのようなときに怒ったり、喜んだりして返事を書くことと致命的な誤りを犯すことになる。
- c そのようなときに日本の「世間」から要請が届けられる。
- d 彼は外国にあって日本の「世間」をしばし忘れて暮らしている。
- e それは忘れていたかつての桎梏が再び押し寄せてくる予感を与えるのである。

1. a ↓ b ↓ d ↓ e ↓ c
2. b ↓ d ↓ a ↓ c ↓ e
3. e ↓ d ↓ c ↓ a ↓ b
4. d ↓ c ↓ e ↓ b ↓ a

問10 傍線部⑦「このような社会において大人になるということ」とありますが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 大人がそれぞれ所属している「世間」の中の人間関係や、他の「世間」との上下関係を欧米型の制度をまねた学校教育を通じて学び、建前と本音の使い分けがうまくできるようになること。
2. 大人たちの「世間」という人間関係が建前の世界であることを知り、欧米の制度を範に作られた学校もまた建前の世界であることを学び、本音に対する建前の姿を明確にとらえられるようになること。
3. 建前から成り立つ学校教育を受けつつも、義務と助け合いの人間関係に縛られた「世間」を生きていく中で、理念と本音の区別をつけられるようになること。
4. ひとつの「世間」の中での大人たちの助け合いや競合関係を見て育つことで建前の世界を体得し、学校までもが差別を助長する建前の世界であると学ぶことで、欧米流の理念と本音とを使い分けられるようになること。

第三問 古典常識に関する次の設問に答えなさい。

問1 十二支を用いた時刻の表現で「酉とりの刻こく」が表す時刻を、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 午前三時～五時
2. 午前五時～七時
3. 午前七時～九時
4. 午後三時～五時
5. 午後五時～七時
6. 午後七時～九時

問2 十二支を用いた方位の表現で「午うま」が表す方角を、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 東
2. 西
3. 南
4. 北
5. 北東
6. 南東
7. 南西
8. 北西

問3 「八月」の月の異名を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 霜月
2. 卯月
3. 文月
4. 葉月
5. 睦月むつき

第四問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

▼これも同じ頃の事とや。神田あたりに^{※1}頓作滑稽をなして人の笑ひを催し家業とする者あり。独り者にて常に酒を好み、飽く事なし。同町に相応に暮らしける者、友達申し合ひ^{※2}伊勢へ参宮するとして、^{※3}路次のなぐさみに右の独り者を召し連れんと誘ひければ、路銀これ無きよしを答ふ。路銀は兩人にていかやうにもまかなはんと^①せちに誘ひければ、さらばとて三人うち連れ品川より神奈川まで、いそがぬ旅なれば、ここにては一杯を傾けかしこにては一樽を空しくして、神奈川^{※4}駅に一宿しける。▲

翌日夜明け前にいづれも神奈川を立たんと起き出でけるに、独り者は酒の過ぎけるゆゑや、くたぶれ臥して色々起こせども目をさまさず。兩人の連れふと思ひつき、かの者酔中に出家せばよきなぐさみならんと、ひそかにかみそり取り出し、髪をそりこぼち^{※5}青道心となして、日の出る頃なほまた起こしければ、やうやく起き出でて頭をなでて^②大いに驚き、兩人の者の戯れになしぬらんとa恨みけれど、かつて知らざるよし答ふ。なほ疑ひて品々申しけれども、いささか覚えなしと陳じけるゆゑ、今はせん方なし。出家にては箱根御関所も通りがたく、伊勢にても出家は制禁し給ふことなれば、はるばるb詣でて益なし。これより江戸へ帰り候はんと^④いとま請ひければ、^⑤兩人もせんなきことせしと悔やみけれど、明白に言はんやうなく、路銀などc与へて江戸へ返しけるに、かの独り者つくづく思ひけるは、かく我をなぐさみ、情けなくも剃髪させぬることの恨めしき。^⑥この遺恨を面白く返さんと色々d工夫して、芝のあたりにて古き袈裟衣を調へて誠の出家の姿となり、四、五日も過ぎてかの連れ兩人の方へ至りければ、妻子驚き、いかなればかかる姿になりて早くも帰りけるやと尋ねければ、かの者涙を流し、かくなる上は推量なし給へ。道中船渡しにて岩へ乗りかけけるにや破船いたし、三人とも浮きぬ沈みぬ流れけるに、我等は運強く岩に流れかかりしを、皆々打ち寄り助け船にて引き上げられ、二人の者を尋ねけれど死生も知らず。その外の乗り合ひも行方なきゆゑ、無常を感じ出家し^{※6}廻国に出で候ふ心得なれども、友達の家内へ知らせざるも便なしと立ち帰る

しと、涙まじりにe語りければ、右物語のうちより妻子共の嘆きを見るも痛ましき有様なり。兩人の妻はあまりの絶へがたさに、髪押し切りともに廻国せんと言ひけれども、廻国の事は親類衆とも相談し給ひ、出家の事は兩人の^{※7}菩提のため然るべしと申し述べ、我は廻国に出で候ふよし申しおきて、行方なくなりしとかや。

兩人の妻は菩提寺を頼み、出家染衣の身となりてねんごろに菩提をとむらひければ、心ある親類などは、あまりに思ひどりの過ぎたるならん。まづ破船の様をも聞き、飛脚をも出し候へかしとかれこれ相談のうち、二人の男は伊勢参宮とどこおりなく仕舞ひ帰りければ、兩人の女房新尼となりて、夫を見て大いに驚き、^⑦いかなる事とそれぞれにも尋ねければ、始めよりの事ども申しけるゆゑ、^⑧よしなきいたづら事なして、かの者にはかられる事のあさましさよと、後悔すれども甲斐なく、右新尼は^{※8}還俗してこの頃は三、四寸も髪げんぞくの伸びたると言ひし。その近隣の者来たりて語り笑ひぬ。

『耳袋』
みみぶくろ

- ※1 頓作 すばやく機転をきかせること。
- ※2 伊勢 伊勢神宮のこと。
- ※3 路次 道の途中。
- ※4 駅 旅人が宿泊できる宿場のこと。
- ※5 青道心 出家したばかりのお坊さんのこと。
- ※6 廻国 巡礼のこと。
- ※7 菩提 死後の幸福のこと。
- ※8 還俗 出家した人が俗世間に戻ること。

問1 ▼から▲の本文内容について記述した次の各文の中から、正しいものを二つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 笑いを家業とする者は、貧乏にあえぐ毎日を送っていた。
2. 笑いを家業とする者は、酒なしではいられないたちだった。
3. 笑いを家業とする者は、一人で酒を飲むことを好んでいた。
4. 神田に住む二人の町人は、笑いを家業とする者を手厚くもてなそうとした。
5. 神田に住む二人の町人は、はじめから笑いを家業とする者を旅先でもてあそぶつもりだった。
6. 神田に住む二人の町人は、強引に笑いを家業とする者を伊勢神宮参りに連れ出した。

問2 傍線部①「せちに誘ひければ」とありますが、どのように誘ったのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 旅費を負担することを申し出て誘った。
2. 多くの酒を飲ませることを約束して誘った。
3. 途中までの同行でもよいと言って誘った。
4. 希望する出家への近道だと教えて誘った。

問3 傍線部②「大いに驚き」とありますが、どうしてですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 気づかぬうちに望んでいた出家が実現したから。
2. 知らないうちに髪が全てなくなってしまったから。
3. 宿屋に泊まっていたはずなのに草原に寝ていたから。
4. はっと目を覚ましたらもう朝になっていたから。

問4 本文中の波線部 a～eのうち、一つだけ主語が異なるものがあります。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. a 恨みけれど
2. b 詣でて
3. c 与へて
4. d 工夫して
5. e 語りければ

問5 傍線部③「今はせん方なし」とありますが、この場面での人物の心情の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 笑いを家業とする者は、酒を飲み過ぎて眠っていた間に自分の髪の毛をそられてしまったことに憤り、二人に恨み言をぶつけたのだが、二人してとぼけ続けるので今に仕返しをしてやろうと決心した。

2. 二人の町人は、出発の朝に笑いを家業とする者が起きようとしないうちに罰を与えるために髪の毛をそったが、笑いを家業とする者が予想外にその恨みをぶつけてくるので、びっくりして知らないふりを決め込んだ。

3. 二人の町人は、酒の飲み過ぎで起き上がることのできない笑いを家業とする者に対して、いたずら心でその髪をそってしまったのだが、笑いを家業とする者があまりにつらそうにしているのを見て自責の念にかられた。

4. 笑いを家業とする者は、酔いつぶれて寝ている間に自分の髪の毛をそったのは連れの二人であると疑って、二人に事情を聞いたのだが、二人が自分たちではないと言いはるので、どうにもならないとあきらめた。

問6 傍線部④「いとま請ひければ」とありますが、どうしてですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 坊主姿が情けなくて、伊勢神宮参りなどはもはやどうでもよくなり、早く江戸に戻りたくなくなったから。

2. 坊主姿にされたことを恨み、これより先には進めないことを口実に、仕返し計画を練ろうとしたから。

3. 坊主姿では、関所は通りにくく、伊勢神宮にも入れないので、この先の旅を続ける意味がないから。

4. 坊主姿では、この先の旅路は進めないし、二人の仕打ちに対する復讐ふくしゅうを思いついたから。

問7 傍線部⑤「両人もせんなきことせし」とありますが、この時の「兩人」の心情の説明として最も適切なものを次の中か

ら一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 相手が起きてから自分の姿に驚く姿は滑稽こっけいである上に、自分たちのしわざではないと信じ込ませることができたので、いたずらが成功したことに満足している。
2. 酒ぐせの悪い相手をからかうつもりで仕掛けたいたずらだったが、想像以上に困惑する姿を見て、やりすぎてしまったと反省している。
3. 旅を楽しもうと思いついたいたずらだったが、本当に信仰心を起こさせてしまい、一緒に旅が続けられなくなったことを残念に思っている。
4. はじめはとぼけていたが、せっかく旅のお伴に誘った相手が江戸に帰ると言い出したので、いたずらしたことを後ろめたく思っている。

問 8 傍線部⑥「この遺恨を面白く返さん」とありますが、どのようなことを考えたのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 二人の町人の家族に対して、それぞれの夫が事故死したとうそをつき、家族たちを絶望させようとした。
2. 出家姿で二人の町人の妻子に会い、涙を流してそれぞれの夫の死をほめかして、その妻たちを出家させようとした。
3. 二人の町人の妻子に対して、それぞれの夫の死というそを信じさせるために、再び髪をそって出家を偽装しようとした。

4. 出家姿で二人の町人の家族に会い、それぞれの夫の事故を涙ながらに告げ、家族たちを夫の供養のために巡礼の旅へと向かわせようとした。

問 9 傍線部⑦「いかなる事とそれぞれにも尋ねければ」とありますが、ここではどのようなことが起きていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 妻は伊勢神宮にいるはずの夫が突然帰って来たことに驚き、夫は髪をそり落として尼の姿になった妻を見て驚いている。
2. 妻は亡くなったはずの夫が生きて帰って来たことに驚き、夫は出家したはずの妻が家にいることに驚いている。
3. 妻は亡くなったはずの夫が生きて帰って来たことに驚き、夫は髪をそり落とし尼の姿になった妻を見て驚いている。
4. 妻は伊勢神宮にいるはずの夫が突然帰って来たことに驚き、夫は妻が出家してまで自分の無事を祈っていたことに驚いている。

問10 傍線部⑧「よしなきいたづら事なして、かの者にはかられる事のあさましさよ」とありますが、その意味内容として

最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 悪意あるいたづらをしたことで、あの男から仕返しされたことはどう考えても自業自得だ。
2. 夫の心ないいたづらのせいで、妻である自分があの男のわなにかかったことが腹立たしい。
3. 夫のくだらないいたづらのせいで、妻である自分があの男から被害を受けたのは悲しすぎる。
4. つまらないいたづらをしたことで、あの男にだまされてしまったことが何とも情けない。

問11 次の各文について、本文の内容と一致しているものには○を、一致していないものには×を、それぞれマークしなさい。

1. 伊勢神宮参りの一行は、最初に神奈川駅に宿を取り、翌朝夜明け前に出立した。
2. 笑いを家業とする者が江戸へ戻ることになり、いたづらをした男たちは旅費を手渡した。
3. 事の真相がわかった後、夫の死を悲しんで尼になった妻のうちの一人が還俗げんぞくした。
4. すぐに尼になろうとした妻たちは、心ある親類の忠告に従い、しばらく尼になるのを思いとどまった。
5. 夫の死を告げられた妻たちは、尼になって笑いを家業とする者とともに巡礼の旅に出ることを希望した。
6. 笑いを家業とする者は、髪をそられた事情を知るために多くの品々を二人の町人に渡したが、教えてもらえなかった。